# 第９回「共に生きる社会」めざして 高校生作文コンテスト　表彰式

## 生きる勇気もらう

高校生が医療福祉の体験や、他者のためにできることをつづる「第9回『共に生きる社会』めざして　高校生作文コンテスト」（国際医療福祉大学、毎日新聞社主催、文部科学省、全国高等学校長協会後援）の表彰式が1日、東京都港区の同大東京赤坂キャンパスで行われ、最優秀賞の佐久長聖高校2年、近常綾香さんら入賞者に大友邦・同大学長から賞状などが贈られた。近常さんは受賞作品「私がもらった大切な言葉」を朗読し、会場から大きな拍手が送られた。また、表彰式に先立ち、同大の赤津晴子、高橋泰両教授と元村有希子・毎日新聞社科学環境部長による特別講演「明日の医療福祉を創る人へ」が行われた。【まとめ・河出卓郎】

各賞を受賞した高校生（前列）と学校賞受賞校の先生

**コンテスト開催趣旨**

病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指すことが国際医療福祉大学の建学の精神。それを次世代を担う高校生と一緒に考えるきっかけとするため、毎年開催している。

### 講評　大友邦・国際医療福祉大学長

今回で9回目を迎えた本コンテストには、全国から総数2137作品という多数の作文が寄せられました。2000人を超える高校生が一生懸命、自分の思いを原稿用紙に書いてくれたことはとてもありがたく、素晴らしいことだと思います。

作品の多くは応募者の実体験をもとに書かれたものであり、高校生らしい新鮮な感性、率直な思い、情熱あふれる意見などいずれも素晴らしい作品ばかりで非常に感銘を受けました。同時に、次世代を担う若い人たちが、現在直面している医療福祉の問題に目も向け、自分の将来像を模索する中でこれに真摯に向き合う姿に、強い感動と期待感を持ちました。

医療福祉の分野で、自分で考え、行動できる人材を育成してきた本学にとって、作文を介して若い世代から、自己の実体験を礎とした率直な思いを聞けたことは大変貴重な機会でした。作品を読みながら、生きる勇気、あるいは元気をもらうことができたと思います。

### 特別講演　明日の医療福祉を創る人へ

国際医療福祉大学
高橋　泰　赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長
赤津晴子　医学部教授　医学教育統括センター長
毎日新聞社
元村有希子　科学環境部長

特別講演の様子。右から高橋、赤津両教授、元村部長

元村　21世紀、日本は少子高齢社会と言われています。これからの日本の医療をめぐる課題は何ですか。

赤津　最も大きな課題は少子高齢化です。長生きできるのは素晴らしいけれど、一方、少子化で高齢者を支えるGDP（国内総生産）に貢献できる人口が減っている。日本経済全体が圧迫され、医療福祉の質も低下する危険性があります。

高橋　医療福祉をどう持続させるかのポイントは、いかに高齢者に働いてもらうか、少なくとも70歳、できれば75歳まで働く社会に変わることです。それと終末期医療をどうするか。3番目は、新しい技術、ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）、ロボットなどを使って医療介護の生産性を上げること。4番目が外国人の労働力の活用です。

元村　AIは何をやり、人間は何をやるんですか。

高橋　AIはあくまでもテクノロジーにすぎない。問題はそれをどう扱うか。とくにAIは人の「心」を認知するまでには至りません。だからこそ、臨床ベースの心理学と、データ活用の双方に通じる人材が今後は求められる。これは、本学の「赤坂心理・医療福祉マネジメント学部」ができた背景でもあります。

元村　人工知能やロボットでは補えない医療の仕事は何でしょうか。

赤津　人間と人間でなくてはつくれない「ラポール」です。信頼し、心を開き、安心して感情の交流を行える関係の成立です。ラポールが築けないと、患者さんからの十分な情報提供も、検査や治療への協力もいただけません。

元村　若い人が21世紀の日本の医療福祉を担うために、どういう人に育ってもらいたいと思いますか。

高橋　医療に関わらず、これからの社会は、データの新たな活用により変わっていきます。本学の医療マネジメント学科の学生は、新たなデータ活用法を身に着け、医療の進歩に貢献できるような人材になってほしいです。また、心理学科では、同じ東京赤坂キャンパスに大学院があり、臨床心理学専攻との一体教育で、今年から新たに国家資格となった「公認心理師」取得に力を入れます。心にも臨床にも精通したプロを育てたいです。

赤津　21世紀に活躍できる医療従事者には、つねに自ら情報を取得、吟味、選択、統合して問題を解決する能力が不可欠です。それには、これまでのような受け身の学習では難しく、アクティブに、生涯にわたって主体的に学習する姿勢を維持し続けることが大切です。

元村　医療福祉の仕事を目指す人にメッセージをお願いします。

高橋　日本は今まで均質社会だったが、急速に国際化が進んでいます。いろいろな価値観を許容することが大切な時代になっています。

赤津　自分からあえて多様性を求めていく積極性が大事だと思います。本学の医学部では、国内外で活躍できる医師の育成をめざし、7人に1人留学生が入るグループでアクティブラーニングを基本とし、1・2年生の授業は英語を用い、多様性のある、主体的な学習を応援しています。

**入賞者一覧（敬称略）**

**最優秀賞**
近常綾香
（長野県・佐久長聖高校２年）

**優秀賞**
須藤優斗（埼玉県立宮代特別支援学校高等部３年）▽常盤りお（横浜市立ろう特別支援学校高等部３年）

須藤優斗

常盤りお

**佳作**
清家冴（静岡県立韮山高校１年）▽吉本美歩（東京都・女子学院高校１年）

清家冴

吉本美歩

**入選**
飯村和佳奈（福島県立白河旭高校２年）▽岩佐雅（栃木県立宇都宮女子高校２年）▽菊池日菜乃（福岡県・大和青藍高校１年）▽武石杏奈（横浜市立ろう特別支援学校高等部２年）▽中尾航（和歌山県・智弁学園和歌山高校１年）

**学校賞**
青森県立八戸北高校▽茨城県・江戸川学園取手高校▽栃木県・宇都宮文星女子高校▽千葉県・日出学園高校▽東京都立国際高校▽佐賀県・佐賀清和高校▽沖縄県立名護高校

**審査委員**
大友　　邦・国際医療福祉大学長＝審査委員長
松谷有希雄・国際医療福祉大副学長
新井田孝裕・国際医療福祉大副学長
川上　和久・国際医療福祉大教授
赤津　晴子・国際医療福祉大教授
冠木　雅夫・毎日新聞社客員編集委員（公益財団法人認知症予防財団常務理事）
元村有希子・毎日新聞社科学環境部長

## 「私がもらった大切な言葉」

### 「眼鏡と同じ」心に残る友の反応

長野県・佐久長聖高校２年
近常綾香さん

「綾香ちゃんがトイレで管を使うのは、眼が悪い人が眼鏡をかけたり、足が悪い人が杖や車いすを使うのと同じことなんだよ。だから、何も変わったことじゃないんだよ」。幼稚園の時に一つ年上の男の子が彼の友人に話した言葉が、ずっと私の心に残っている。

私は、二分脊椎症という先天性の病気のために膀胱直腸障害があり、排尿の際にはカテーテルという管を使って数時間おきに導尿をしている。自分で導尿ができるようになったのは幼稚園の年長の時で、それまでは母が来園して導尿を行っていた。入園前に幼稚園の先生方は、私と両親の気持ちを優先するため「障害をみんなに伝えるか」「導尿の時に職員用のトイレを使うか」など、障害について細かく打ち合わせをしてくださったそうだ。私の両親には「障害を隠す」という感覚がなかったので、「幼稚園やほかの園児に迷惑がかからないのであれば、障害のことを伝えて、できるだけみんなと同じように過ごさせてほしい」という希望を伝え、快く受け入れていただいて幼稚園生活がスタートした。

近常綾香さん（右）と大友邦学長

毎日お昼に友達のお母さんが幼稚園に来るというのは、とても珍しいことだったと思う。私のトイレの時間には大勢の友達が集まってくることが何度もあったし、時には別の学年の子がいることもあった。みんなが口々に、「どうしてお母さんが来るの？」「トイレで何するの？」と聞くのは当然のことだった。母が説明すると友達は、「ふーん」と何でもないことのように聞きながら、それまでと何も変わらず私のそばにいてくれた。

幼稚園に入園して半年くらいたったころ、母が来園する疑問を口にする子はほぼいなくなっていたが、たまたま通りかかった一つ年上の男の子がトイレについてきて、それまでのみんなと同じような質問をした。その時に冒頭の言葉をかけてくれたのが、年齢別の縦割り保育で私とペアを組んでいた男の子だった。園外保育や縦割り給食などの行事の時、口数は多くないけれど、何度も体調を心配してくれて、母にも私の病気について聞いてくれていた。彼にとっては友人との普通の会話だったかもしれないが、私にとっては忘れられない言葉だ。

確かに、眼鏡をかけている人や車いすを使っている人に、細かく理由を聞いたりする人はあまりいないと思う。私は近視で小学校高学年から眼鏡をかけているが、理由を聞かれたり、変だと言われることはない。それどころか、デザインにこだわってフレームを選んだから、「かわいいね」「どこで買ったの？」と褒められるほどだ。

私は周囲の人にとても恵まれている。程度に違いはあれ、障害に関してかけられた言葉でつらい思いをしている方がたくさんいる中、私は心無い言葉や悪口を言われた記憶がないのだ。

障害に偏見を持たず、できることとできないことを状況に応じて相談しながら対応してくれた幼稚園や学校の先生方。障害まで含めて私の個性を理解してくれる友人達。障害を特別視せずに、認めて助けてくれたこれまでの出会いには本当に感謝している。

病気や障害のある人、健常な人が互いを認め合うと聞くと、特別な勉強や専門的な知識が必要そうで身構えてしまう。しかし、幼稚園児だった彼のように考えることができたら「共に生きる社会」はみんなでつくっていくことができると思う。

私の心に残る、温かい言葉。彼の他にもたくさんの友達からもらった優しさで私は毎日楽しく過ごしている。さあ、今度は私の番だ。将来の夢である、薬学の仕事で多くの人の力になりたい。病気や障害がある人もない人も、みんなが暮らしやすい社会をめざして。（原文のまま）


# 特待奨学生Ｂと医学部特待奨学生を選抜

**全学部（医学部除く）対象**　一般入試前期、大学入試センター試験利用入試の成績上位合格者から特待奨学生Ｂを選抜します（奨学金は各年度の授業料に振り替えます）。
※成田看護学部・小田原保健医療学部は選抜しません

| 特待奨学生を選抜する入試 | 対象者数 | 奨学金給付額 |
|---|---|---|
| 一般入試前期<br>大学入試センター試験利用入試 | 特待奨学生Ｂ　最大190名 | 授業料の 30% 相当額 |

【2019年度入試日程（医学部除く）】

| 入試区分 | 学部 | 試験日 | | 試験地 | 出願期間［消印有効］ |
|---|---|---|---|---|---|
| 一般入試前期 | 保健医療学部 | Ａ日程 | 1/28（月） | 盛岡・仙台・大田原・水戸・高崎・東京赤坂 | 1/4（金）～1/18（金） |
| | | Ｂ日程 | 1/30（水） | 郡山・大田原・成田・東京赤坂・長野・小田原・静岡・福岡 | |
| | 医療福祉学部<br>薬学部 | Ａ日程 | 1/29（火） | 盛岡・仙台・大田原・水戸・高崎・成田・東京赤坂・沖縄（薬学部のみ） | |
| | | Ｂ日程 | 1/31（木） | 郡山・大田原・東京赤坂・長野・小田原・静岡・福岡 | |
| | 成田看護学部<br>成田保健医療学部 | Ａ日程 | 1/29（火） | 仙台・大田原・水戸・成田・東京赤坂・小田原 | |
| | | Ｂ日程 | 1/30（水） | 大田原・成田・東京赤坂・小田原・静岡 | |
| | 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 | Ａ日程 | 1/28（月） | 仙台・大田原・水戸・高崎・東京赤坂 | |
| | | Ｂ日程 | 1/31（木） | 郡山・大田原・東京赤坂・小田原 | |
| | 小田原保健医療学部 | Ａ日程 | 1/29（火） | 水戸・高崎・成田・東京赤坂・横浜・小田原 | |
| | | Ｂ日程 | 1/31（木） | 東京赤坂・長野・横浜・小田原・静岡 | |
| 大学入試センター試験利用入試 | 全学部（医学部除く） | 個別学力検査等は実施しません。センター試験：1/19（土）・1/20（日） | | | 1/4（金）～1/23（水） |

上記のほか一般入試後期、社会人・留学生特別選抜入試を実施します

**医学部対象**　一般入試および大学入試センター試験利用入試の成績上位合格者から医学部特待奨学生を選抜します（奨学金は各年度の学生納付金に振り替えます）。

| 医学部特待奨学生を選抜する入試 | 対象者数 | 奨学金給付額（6年間） | 6年間の学生納付金額（奨学金給付前→奨学金給付後） |
|---|---|---|---|
| 一般入試 | 最大40名 | 1,400万円 | 1,850万円 → 450万円 |
| 大学入試センター試験利用入試 | 最大5名 | | |

【医学部 2019年度入試日程】

| 入試区分 | 試験日 | | 試験地 | 出願期間［消印有効］ |
|---|---|---|---|---|
| 一般入試 | 一次選考 | 学力試験・小論文 1/22（火） | 成田 東京（五反田） 大阪・福岡 | 出願受付中 締切：1/11（金） |
| | 二次選考 | 個人面接 1/29（火）～2/3（日）のうち1日 | 成田 東京赤坂 | |
| 大学入試センター試験利用入試 | 一次選考 | センター試験 1/19（土）・20（日） | ― | 出願受付中 締切：1/18（金） |
| | 二次選考 | 学力試験・小論文 2/15（金）<br>個人面接　2/20（水） | 成田 東京赤坂 | |

# 国際医療福祉大学大学院

**大学院オープンキャンパス　1/13（日）**
東京赤坂・大田原・成田・小田原・福岡で開催
詳細は大学院ホームページをご覧ください。

**保健・医療・福祉の高度専門職へのキャリアアップを支援する4つの研究科**
■医療福祉学研究科（修士課程／博士課程）　■薬学研究科（博士課程）
■薬科学研究科（修士課程）　■医学研究科（修士課程／博士課程）

**「働きながら学びたい」社会人が学びやすい3つの特長**
❶ 東京赤坂・大田原・成田・小田原・熱海・福岡・大川に7つのキャンパスを設置
❷ 遠方のキャンパスの講義をリアルタイムで受講できる「同時双方向遠隔授業システム」
❸ 多くの授業を平日夕方以降と土曜日に開講。eラーニング科目や休暇期間の集中講義も充実

※修士課程は、大卒者に限らず、短大・専門学校を卒業した満22歳以上の方も出願可能です（出願資格審査あり。国家資格保持等の条件を満たしている必要があります）

夜間に学べる本格的生涯教育
公開講座「乃木坂スクール」受講生受付中！
https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/nogizaka/

# 国際医療福祉大学

入試のお問い合わせ　入試事務統括センター　TEL:0476-20-7810　E-mail:admission@iuhw.ac.jp
大学院のお問い合わせ　東京赤坂キャンパス入試事務室　TEL:03-5574-3903　E-mail:daigakuin-nyushi@iuhw.ac.jp

大田原キャンパス　栃木県大田原市北金丸2600-1　TEL.0287-24-3200（入試事務室）
■保健医療学部　看護学科／理学療法学科／作業療法学科／言語聴覚学科／視機能療法学科／放射線・情報科学科
■医療福祉学部　医療福祉・マネジメント学科（社会福祉コース、精神保健福祉コース、介護福祉コース、診療情報管理コース、医療福祉マネジメントコース）
■薬　学　部　薬学科（6年制）
成田キャンパス　千葉県成田市公津の杜4-3　TEL.0476-20-7810（入試事務統括センター）
■医　学　部　医学科　■成田看護学部　看護学科　■成田保健医療学部　理学療法学科／作業療法学科／言語聴覚学科／医学検査学科
東京赤坂キャンパス　東京都港区赤坂4-1-26　TEL.03-5574-3903（入試事務室）
■赤坂心理・医療福祉マネジメント学部　心理学科／医療マネジメント学科
小田原キャンパス　神奈川県小田原市城山1-2-25〈本校舎〉　TEL.0465-21-0361（入試事務室）
■小田原保健医療学部　看護学科／理学療法学科／作業療法学科
ほかに福岡キャンパス（福岡県福岡市）、大川キャンパス（福岡県大川市）を設置

大学案内・願書を無料で郵送（テレメールで24時間受付）
パソコン・携帯▶https://telemail.jp/
IP電話▶050-8601-0101
資料番号
パンフセット（医学部除く）　998259
医学部パンフセット 998260
※全学部でインターネット出願を導入
学生募集要項はホームページからダウンロード